

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	メリーライフ株式会社 グループホーム里の家(もみじ)	評価実施年月日	平成21年12月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>事業所独自の理念を作り、理念を元にサービスを提供している。</p>	○	<p>運営方針として「地域と共に」「地域に根ざした」等の目的を掲げており、全職員も必要性について理解している。地域との関わりが増えてきており、月に2回程度、ボランティアの方も来て頂き、地域内の行事も積極的に参加している。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>事業所の理念とユニット目標を掲げ、常に実践に向けて取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も、理念は常に意識し、支援していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>理念は、ユニット・玄関先と家族や地域の人に解りやすいように掲示している。</p>	○	<p>今後も全家族、地域の方に浸透していけるように取り組んでいく。(常に見やすい掲示など)</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>隣近所の方々との付き合いは、外出した際などに気軽に声をかけて下さったり、声をかけたりと日常的な付き合いが出来るようになってきている。</p>	○	<p>今後も、外出時などにお付き合いが出来るように努め、また気軽に立ち寄っていただけるような環境整備など常に検討していく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域との関わりが増えてきており、月に2回程度、ボランティアの方も来て頂き、地域内の行事も積極的に参加している。</p>	○	<p>今後も、定期的に地域の方と交流できるように声をかけていく。ホームでの行事などに地域の方が多々参加できるように取り組んでいく。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の高齢者などの関わりは少ない状況である。役立つことは殆ど実施されておらず、今後検討実施が必要である。</p>	○	<p>現在、ホームは奥まった所にあり目だっていない。気軽に立ち寄れる環境もない状態である。花などでアピールするほか、気軽に立ち寄れるように、庭にくつろげるスペースを設置(テーブル・椅子など)すること検討中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>毎月の会議で、自己評価(1つの項目)を取り上げ取り組み内容などをレポートに上げている。それらをスタッフ間で話し合い意見をまとめ、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>今後も、意義を理解し出来ないところなどが、改善できるように常に検討していく。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度行っている。</p>	○	<p>運営推進委員会の内容については議事録としてだけでなく管理者からも説明が成されており、参考意見や今後の取組み課題としても活用している。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村との連携について、本部職員が担当窓口として主な働きかけを行っており、その時々により事業所管理者等も行き来している。また、情報交換や共有についても密に行っており、いつでも互いに相談や話し合いを行える関係を築けている。</p>		<p>今後更により良い関係が継続し常に協力し合える状態に努めていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、地域権利擁護事業・成年後見制度について学ぶ機会は殆どない状況である。</p>	○	<p>今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待の研修に参加し、ユニット会議やミーティングなどで話し合いの場を設け、事例検討を行い、虐待の知識を高めている。</p>		<p>高齢者虐待に発展していく可能性がある、不適切なケアに対しても話し合っており、環境の設備やスタッフの知識向上を目指していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居前に管理者などから説明があり、理解・納得を図っている。</p>		<p>入居直前に詳しい説明があるが、事前にもっと説明ができると、尚家族は安心すると思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	スタッフ等に直接言ったださる場合は、全スタッフに報告するとともに、苦情となる内容では書面に残し会議などで話し合い運営に反映させている。国保連のポスターをホーム内に掲示している。	○	今後とも意見などが上がった時は、対応策等を考え迅速に対応していく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族様等への報告は主に面会時に報告している。(キーパソン)また、定期的な面会がない時は、電話連絡にて報告をしている。毎月一回、里の家便りも発行し暮らしぶりを掲載している。		ケアプラン作成時にあたり、毎回家族様に相談しているが理解が難しい様子な事が多く。今後、わかりやすく説明するとともに、近辺状況などもわかりやすく説明していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様からの意見・不満がある時は真摯に受け止め苦情となる内容時は、書面に残し会議等で話し合い運営に反映させている。また、ホーム内に国保連のポスターを掲示している。	○	今後とも意見などが上がった時は、対応策等を考え迅速に対応していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者・管理者は、毎月のユニット会議に参加しており、スタッフから意見がある時は提案等を聞いて頂き運営に反映させている。	○	今後も、入居者の状態に合わせての環境設備などが迅速に改善できるように意見を上げている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	基本的には、日中3人体制だが、一週間に1度、4人体制としており、行事や受診時に役立っている。		必要な時間帯に、人数確保をしているわけではない為、今後、考えていく必要がある
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職は、以前より少なくなったが、異動に関しては、職員の教育どの入居者とも対応できるようにと行っている。		異動することによる、入居者のダメージを軽減させる為、移動の前には、何度かユニット間で交換勤務する時間設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	以前より、外部での研修を受ける機会が多くなり、研修で得た知識を現場にて有効に役立てている。	○ 本部での研修も月に一回行っており、働きながらケアの質を高めている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	同業者との交流の機会を設けており、2ヶ月に1度は市内のグループホームが集まり情報を共有している。	今後同じ地域の同業者の方と交流を通じケアの問題点等、相談などしていけたらと思う。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	食事会などを通じて運営者との交流を図っている。その際、現場でストレスなどになっていることを相談している。	○ 今後、交流の場が少ない為、回数を増やしストレス軽減に向けた取り組みを検討していく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、それ以外の日常業務内での取組みや個々の成長過程等も確認し、能力を伸ばせるよう個別指導教育も行っている。	○ 職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居前に本人様から困っていること等、面談し受け止める努力をしている。	入居前に面談をすることが一回程度しかない為、情報が不十分なケースがあり。今後は、事前に何度か話す機会を設け、信頼関係が結べたらと思う。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居前に本人様から困っていること等、面談し受け止める努力をしている。	入居前に面談をすることが一回程度しかない為、情報が不十分なケースがあり。今後は、事前に何度か話す機会を設け、信頼関係が結べたらと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様とご家族様の希望が一致しない場合もあるが、その際は職員も含めた三者間で話し合いを持つよう努めている。支援の優先度についてもケアプラン上でも説明行い、専門的な見地からもご家族様にアドバイスしながら決定している。		相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時は、コミュニケーションを多く図り、信頼関係を作るとともに本人が馴染めるよう場の雰囲気作りを支援している。また、家族様からの情報もケアに役立てている。		今後とも、新しい方には徐々に慣れて頂けるよう困っていることなど、迅速に対応ができるよう、問題点を良く理解していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様とは介護される一方の立場におかず対等な立場で接するよう努めている。支えあう関係などメリハリを付け対応している。		スタッフにより違う対応にならないよう会議等で話し合っていく必要がある。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族様とは面会時や電話連絡でお話することで、お互いに話しやすい関係を作っている。ケアに対し、困っていることなども相談することで関係を築いている。		より家族様と関係が築けるよう行事などに参加の機会を多くもてるよう検討していく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族様には小さなことでも、入居者様の状況を相談している。相談することや入居者から家族への手紙を書くことで面会の頻度が多くなるなど成果がでている。		今後も入居者様と家族様が良い関係を築いていけるよう間に入り支援していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行事で昔住んでいた地域にドライブにいたり、地域の催し物に参加することで本人が大切にしてきた関係が途切れないように支援している。		認知力の低下により、昔行ってきたことがわからなくなってきた方もいるが、関係が途切れないよう今後も支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者が孤立しないように一人ひとりの性格に合わせた支援をしている。		今後も交流の場を提供していき、入居者様同士の中にスタッフが介入(必要に応じて)する事で円滑にコミュニケーションがとれるように支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。		退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の希望は普段の日常生活の中での会話等を通じて意向の把握に努めている。(食事・行事・買い物などに生かしている)困難な方には、その方の表情や言動を観察し本人本位に検討している。	○	今後も小さなことでも情報収集をしっかりと行い、ケアに生かしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族様、本人様より情報収集を行い、センター方式を家族様に協力をお願いし作成している。馴染みの暮らしなど把握することでケアに役立てている。		日々の会話の中で新しい情報収集が出来れば記録に残し、把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中で言動などを観察し、特変があれば記録などに残し把握するようにしている。記録を元にスタッフ間で情報を共有している。		今後も、日々の生活を観察していく事で特変があれば記録に残すと共に事故などを未然に防げるように対応していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	より良く生活するた為、困っていることなどの情報収集を行っている。また、家族様から要望などを伺い介護計画を作成している。		介護計画作成にあたり、家族様の要望が少ない為、今後も積極的に話す場を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	認知力低下や入院後など、状態に変化があった場合は必ず会議にて話し合いその方にあった介護計画を作成している。		現在、介護計画の期間が3ヶ月更新をとっているため、状態変化などでの変更は迅速に対応がとれている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の状況を毎日介護経過記録に記入し、一日の流れをわかるようにしている。介護経過記録にて評価などを行い、介護計画の見直しに反映している。		今後とも記録は最も重要な為、よりわかりやすく理解(実践・結果など)できるように日々記入の仕方など検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様及びご家族様の希望を聞き取り、可能な限り希望に沿ったサービス提供と支援を行うよう努めている。その時々々の意向の変化に迅速に気付くよう関りを深めている。具体的なサービスとして、協力医療機関以外の通院や事業所で依頼している理美容以外の利用についても積極的に実施している。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の幼稚園などに運動会・学芸会に参加させて頂いている。また、定期的にボランティアの方に来ていただき、歌会をおこなっている。	○	ボランティアの方が来る機会が増え、地域の方と交流する事が多くなっており、今後も協力して頂ける様働きかけていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、利用していない。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、地域包括支援センターと協働していない。	○	運営推進委員会の実施をきっかけに各関係と気軽に相談が行える状態である為、現在のところ問題を感じる事はない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力病院があり、往診や緊急時の対応をして頂いている。(内科・整形・皮膚科など)		協力病院以外にも、本人様が以前かかっていた病院受診することや、家族様などの希望病院受診に柔軟に受診できるようにしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院があり、往診や緊急時の対応をして頂いている。(内科・整形・皮膚科など)		入居後、頭部検査など行っていないので、今後専門病院にて定期的な頭部検査などを受診できるよう検討中である。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院などの看護師に、緊急時や健康管理などで異常がある場合は連絡しており、指示を仰いでいる。		体調不良時(発熱など)などにはすぐに病院に連絡し症状を伝え指示を仰いでいる。今後も入居者様の身体状況を報告していく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、介護添書を作成すると共に、口頭で本人様の状態説明をしている。認知症進行防止の為、早く退院できるようDrなどに相談している。		今後も生活状況を詳細に伝え、早期退院が出来るように努めていきたいと思う。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現時点では、まだ終末期の支援はしていないが、いつでも出来るよう心がけている。	○	本人様の希望、家族様の要望などを話し合い、今後のケア方針を検討していく。また、医療機関からの支援が重要な為、Drとも相談し方針を検討していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現時点では、まだ終末期の支援はしていないが、いつでも出来るよう心がけている。今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人様の希望、家族様の要望などを話し合い、今後のケア方針を検討していく。また、医療機関からの支援が重要な為、Drとも相談し方針を検討していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	新しく入居される方は、馴染みの家具などを持ってきて頂き、自宅に近い雰囲気にて生活をして頂いている。		今後も、家族様・本人様から以前の暮らしの状態を聞きその方に合わせた環境を提供していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	トイレ誘導など、他者に気づかれないようにしており、トイレ内でも露出を最小限にする等、プライバシーに努めている。記録など外部に持ち出さないよう徹底している。	○	食事介助の際も自立した方と介助は必要な方とそれぞれ、食事場所をかえるなどの提供している。今後もプライバシー確保に努めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	普段からのコミュニケーションを図る事で希望など言いやすい環境作りに努めている。また、日々の会話から本人様の希望などを聞き記録に残し、ケアに生かしている。	○	今後も、希望の表出や自己決定を働きかけていく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の決まりや都合を優先してしまうケースがあるが(人手不足などで)一人ひとりのペースを尊重することを日々心掛けている。	○	今後も、入居者様の様子を見て遊びの提供し一人ひとりに合った遊びなどを力をいれて支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に美容師さんが来設して頂き、カットなどをして頂いている。また、希望(別の美容師)がある場合は外出し支援している。	○	今後も要望があれば希望の店などに外出していく。お金の使い方などわからない方に対しては、誕生日などに洋服をプレゼントしたりとおしゃれができるように支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	食事は、一人ひとりの咀嚼能力に合った食事提供をしている。(きざみなど)また、食事作りなどが好きな方には一緒に作って頂いている。	○	今後も安心して食事が出来るよう座席も考えており(不仲もある為)環境面でも楽しく食事が出来るように配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居前に本人様・家族様に嗜好の把握に努めている。また、買い物、日常生活から好みの聞き食事提供の参考にしている。	○	飲み物は常に数種類を用意しており、入居者様の好みに合わせて今後も支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の間隔を考慮し、トイレ誘導することで失敗の軽減を図っている。	○	今後も一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援することで失敗を軽減するようにする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日にちをみて入浴の声かけをしている。また、希望があった時は入って頂いている。時間帯も特に決めてはならず支援している。	○	ホーム内のお風呂だけではなく、近場の銭湯などに行く機会を設けている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転になりがちな方には、日中なるべく起きて頂き(遊び、外出、入浴、家事など)適度な疲労感を提供し夜間良眠につなげている。	○	夜間、休むことが難しい方に関しては眠剤を服用するなど、Drと相談している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その方に合わせた楽しみを提供している。家事が好きな方に声をかけ参加して頂いたり、外出が好きな方には外出を提供したりと気晴らしの支援をしている。	○	個々の役割もあり(洗濯物をたたむなど)今後も張り合いのある生活を支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所有していないと不安になる方に対して、数千円ほど所持しており、外出時などにおもちして頂いている。	○	お金の使い方がわからなくなってきた方が多くなってきているが、買い物時などに物を選んでいただいたり今後も支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬季は外出の機会が減るが、それ以外は入居者様の希望を伺い極力外出できるように支援している。	○	入居者様が高齢化している為、体力を考慮した上で無理のない様外出して行きたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	入居者様数人でバイク(食事)に行ったり、花見などに行ったりと月に2、3回普 段行けないところに外出している。	○	今後、家族様といける機会を多く提供できるように話しを進めていき たい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	ホーム内に電話が設置してあり、本人様がかけたいところに電話ができるよ うになっている。	○	現在、電話・手紙を理解できない方が多く、支援することが難しい状況に ある。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	家族様、ご友人が来設された際は、日常生活をお伝えすると共に関係作りに努 めている。	○	今後もプライバシーの尊重をしつつ雰囲気作りに努めていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	入居前の契約時で身体拘束をしない契約をかわしている。		日々のケアから拘束をしないケアを行っており、今後も継続して支援して いく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んで いる。	各ユニット、玄関に鍵がかかっている。	○	防犯や職員の勤務体制によりある程度鍵の必要があると思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自室で過ごされている方は定期的に巡回し状況を確認している。また、昼夜通して入居者様の所在をスタッフ間で確認し安全を確保している。		特に睡眠不足などにより、歩行不安定な方などこまめに巡回し、事故を未然に防げるように支援している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりにあった家具などの配置を提供している。		今後も、本人様の状態をみて安心出来るような環境作りに努めていく。また、誤飲防止のため、洗剤など見えないところに保管している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの歩行状態などを観察し、どのような時に障害となっているのかを把握することで事故防止の支援に取り組んでいる。		今後も未然に防げる事故は起こさないよう、スタッフ間で意見を共有し支援していく。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練は何度か行っており、また緊急時のマニュアルも作成しており常に備えている。		訓練は定期的に行っていないため、今後緊急時に備えて訓練が必要と思われる。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災の訓練を行っており、緊急時に備えている。		火災以外の訓練は行っていないため、あらゆるケースを想定した訓練が必要であると思われる。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	転倒など個々のリスクを家族様に予め相談・報告することで理解をして頂いている。	○	今後もリスク対応が抑圧感にならないように注意し、ホーム内を自由に行動できる体制を作っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、バイタル測定をしており(食事・水分量・血圧・排泄状況など)異変を見つけやすいよう支援している。異変がある時は情報を共有し迅速な対応をしている。		今後も、現在の状況を維持し異常があった場合の送りの徹底など情報を共有していく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内部の研修にて個々の服薬状況を再度確認するなど理解・把握に日々努めている。		今後も、新しい内服が処方されたときなど理解・把握に努めていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事作り、水分摂取には注意しており、乳製品、食物繊維など事前の予防に取り組んでいる。	○	今後も、食事・水分摂取には注意、運動する機会も多く提供できるように支援していく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケア時、自ら行えない方には介助にて対応させて頂いている。また、歯科などに受診が必要な方は付き添って受診している。	○	現在、義歯を使用されていないかたなどの口腔ケアが十分でない為、今後話し合い、対応策を検討していく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量は毎日確認しており、少ない方にかんしては捕食や水分補給が出来るように支援している。	○	水分を好まれない方に対して、好まれる物を見つける為、多種類の水分用意し情報収集をするなど対応をしていく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染を未然に防げるように、外出後は手洗い、うがいを支援、掃除では漂白剤を使用するなどの対応をしている。	○	感染者が出てしまった場合は感染マニュアルが作成されており、感染が拡大しないように処置していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所の消毒は毎晩行っている。食材に関しては賞味期限切れなどはおかないように注意し衛生管理をしている。	○	今後も、食材は特に注意し食中毒を起こさないよう加熱処理など時季に応じた調理方法も検討していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに花があり、ウッドデッキやベンチがあり誰でも休めるよう工夫している。		現在、ホームまわりに花を植えたりと親しみやすい環境を作っている。玄関周りも今後、椅子をおいたりと改善予定である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の扉の開閉音がうるさくならないようにクッションテープを貼ったりと支援している。日差しが強い時などカーテンをかけるなど、居心地のよい空間を提供している。	○	廊下には行事の写真を掲示したり、家族様から頂いた手芸を掲示したりと家庭的な雰囲気作りに努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にはソファがあり、ホールにはテーブルが二つ用意してある。入居者様がどこでもくつろげるようにしているが、空間が狭く若干の難がある。	○	狭い空間の中で居場所を作るのは現時点で困難である。物品による環境改善が望ましいと思われる。(大きいテーブルから小さめのテーブルをいくつか用意、ソファも多き物かた若干小さい物へ変更など検討必要)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が以前使用されていた家具や愛着のあるものなどを居室におくことで安心できる暮らしを提供している。	○	本人様の認知力の状態に合わせた対応を考えている。今後も環境作りを行い居心地のよい生活を支援する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除などで換気するなど対応をしている。各居室に温度計、湿度計があり適正な温度、湿度が保たれているか確認し、居心地のよい環境を支援している。		今後も、温度調節など管理し、夏場では脱水などがないように注意していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	空間認識がない方に対して、廊下に畳(スロープ付き)段差があったが、事故の危険性があり畳を撤去し段差をなくしている。また手摺りは、個々の身長によって使用しやすいように2段式となっている。		今後も入居者の状態に合わせての安全な環境づくりを検討・実行していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々に合った環境を提供している。トイレや居室が分からない方がいる為、入居者様に分かり易い様貼り紙を使用するなどの対応をし自立支援をしている。		個々に状態に合わせて今後も迅速に対応していく。不安、混乱を取り除けるようにしていく。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑やウッドデッキがあり、外での食事会を実施しており有効に活用している。		あかしあ屋根の上にスペースがあり、活用できたらと思う。壁を抜いたり、フェンスを作ったりと大規模な工事となるが、限られたスペースしかないので有効利用したい。入居者が自由に活動できると期待される。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)